

**製品名: HC-II ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab11928**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:10000
分子量	60kDa

**抗原情報**

遺伝子名	SERPIND1
別名	SERPIND1; HCF2; Heparin cofactor 2; Heparin cofactor II; HC-II; Protease inhibitor leuserpin-2; HLS2; Serpin D1
遺伝子 ID	3053.0
SwissProt ID	P05546
免疫原	抗血清はヒトヘパリンコファクター II 由来の合成ペプチドに対して作製された。AA 範囲: 41-90

**背景**

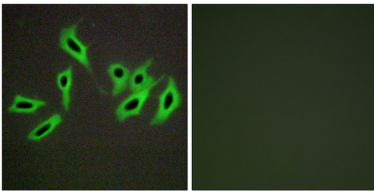
この遺伝子はセルピン遺伝子スーパーファミリーに属します。セルピンは炎症、血液凝固、癌転移など、多くのプロセスにおいて役

割を果たします。このファミリーのメンバーは、プロテアーゼ活性部位と相互作用してプロテアーゼ活性を阻害する反応中心ループを有する、高度に保存された二次構造を有します。この遺伝子は、トロンビンおよびキモトリプシン阻害剤として機能する血漿セリンプロテアーゼをコードします。このタンパク質は、ヘパリン、デルマトン硫酸、およびグリコサミノグリカンによって活性化されます。この遺伝子の対立遺伝子変異は、ヘパリンコファクター II 欠乏症と関連しています。[RefSeq 提供、2015 年 7 月]、疾患: SERPIND1 の欠陥はヘパリンコファクター 2 欠乏症 (HCF2D) の原因です[MIM:612356]。HCF2D は、再発性血栓症の傾向を特徴とする止血障害である遺伝性血栓症の重要な危険因子である。、ドメイン: N 末端酸性反復領域は、グリコサミノグリカンによって促進されるトロンビン阻害を部分的に媒介する。、機能: HC-II の N 末端ペプチドは、単球と好中球の両方に対して走化性活性を有する。、機能: グリコサミノグリカン、ヘパリン、またはデルマトン硫酸によって活性化されるトロンビン阻害因子。後者の存在下では、HC-II はアンチトロンビン III (AT-III) に代わって主要なトロンビン阻害因子となる。また、キモトリプシンも阻害するが、グリコサミノグリカン非依存的である。、類似性: セルピンファミリーに属する。、組織特異性: 主に肝臓で発現する。、

## 研究分野

補体と凝固カスケード;

## 画像データ



ヘパリンコファクター II 抗体を用いた HepG2 細胞の免疫蛍光染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした状態。